

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きが十分にできていない児童がいる。 自分の思いを表現する力では、個人差が大きい。 発表したり、話をしたりすることは上手であるが、友達や教師の話を聞くことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降も、ドリルやプリントなどを活用し、繰り返し練習するようにする。 学習内容に合わせて、様々な「表現」の方法を教え、自分に合った表現の仕方ができるようにする。 本の読み聞かせをしたり、授業の中で聞いたことを短い言葉で表現したりする活動を多く取り入れる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念や構成が十分に理解できていない児童がいる。 文章題が理解できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物に置き換えて説明をしたり、ブロック操作をしたりしながら計算をイメージできるようにする。 具体物や図に表すことで、文章をイメージする練習をする。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物の育ちの変化や成長について、気付くことはできるが、ワークシートに書き表すことが苦手な児童がいる。 学校を含め、公園や図書館など地域の施設を利用している児童が多いが、自分たちがお世話になっている方や支えている方の存在に気付いている児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察するポイントを絞り視点を明確にすることで、絵に描いたり、文章にしたりすることができるようにする。 学校内の大人や、地域の方、保護者などから話を聞くことや、インタビューなどの活動を通して自分との関わりを意識させ、人と関わろうとする意識をもたせるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って歌を歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ児童が多い。一方、リズム感をつかめない児童もあり、音や動きがずれる。 鍵盤ハーモニカについては、「できるようにになりたい」という意欲が高いが、指使いや息の使い方が分からない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な曲を歌ったり、踊ったりすることで、たくさんリズムに触れ、1年生のうちにリズム感をしっかりと身に付けるようにする。 教科書だけでなく、練習帳などに載っている他の曲にも取り組み、指使い等の基本を指導しながら多くの曲が演奏できるという自信に繋げる。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのり、クレヨン、絵の具等の基本的な道具をまだ上手に使いえない児童がいる。 想像して描いたり、自由に発想して作ったりする場面で、自分の思いを形にするのが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技法を習得できるよう、繰り返し指導を行い、様々な材料、材質を取り入れて経験を豊かにする。 導入時、作品のアイデアを引き出すための見本の提示や、児童の考えの交流、分かりやすい授業の流れの板書を工夫する。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の運動経験の差から、走る、投げる、掴むといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。 ボール遊びやゲーム型の運動あそびには意欲的に取り組む一方で、器械運動については始める前から「できない」と取り組もうとしない児童が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動きを取り入れた体づくり運動を取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。 「技能の習得」のみを目標にするのではなく、様々な体の動かし方、使い方を経験させ、楽しむことを中心に据えて取り組ませることで、小さな「できる」を増やしていく。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章理解の話し合いで、感じたことや思いを話す。 正しい表記を身に付け、順序を考えて書き表す。 漢字を正しく読み、書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で話し合う学習形態を工夫するとともに、ICTの活用により書いて意見を交流する場をつくる。 文章の構成を考える場では、ICTやカードを活用して試行錯誤ができるようにする。 漢字学習のソフトを活用したり、ゲーム化したり楽しく学習できるように工夫する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 筋道立てて考え、絵や言葉、式、図を使って説明する。 文章題を読んで立式する。 具体的な場面を通して、時刻と時間の関係がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 操作活動や絵・図をかく活動を丁寧に扱うとともに少人数で話し合う学習形態を工夫する。 スモールステップで課題を提示し、絵や図に表す、ワークシートを用意するなど個に応じた指導の工夫をする。 ICTを活用し、児童が進んで繰り返し学習できるようにする。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して意識した課題の解決に向け、意欲をもつ。 話し合い活動で、自分の思いや願いを表出する。 活動を通して得た気付きを次の活動に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動を見守り認めるとともに、解決の方法を自ら見つけられるよう支援を工夫する。 発言しない児童には、発言の機会をつくったり意思を確認したりする。 タブレットも活用して、気付いたことを自ら振り返ることができる環境をつくる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って表現を工夫する。 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。 鍵盤ハーモニカを正しい指づかいで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が工夫した表現を互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを感じ取る場をつくる。 音遊びをする中で、児童が思い付いた考えを、実際に音に出して確かめていく場を繰り返し設定する。 動画や書画カメラなどICT機器を活用する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことを基に表し方を工夫して表す。 用具の使い方など、基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に表し方を工夫できるような指導計画や環境を設定する。 安全な使い方を十分に指導するとともに、用具を使うことから表現が広がるような指導を工夫する。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに進んで取り組む。 遊び方を工夫し、考えたことを友達に伝える。 友達の良い動きを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びへの不安を軽減する場の設定や、見通しのもたせ方を工夫する。 振り返りの時間を設定するとともにタブレットや学習カードを活用して伝え合いの機会を作る。 友達の良い動きを擬態語や擬音語で表現したり、タブレットを活用して見合ったりする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の読み取りを苦手としている児童がいる。 漢字の習熟度に個人差が見られる。 書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用して、文の構成を視覚的に理解できるようにする。 デジタル教科書や書画カメラを活用して、視覚的支援や言語事項の指導を工夫する。 書く前に文章を例示したり、構成メモを使って書くことを整理したりする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 量れる重さの異なるはかりの一目盛りで読み取ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用して、視覚的に理解できるようにするとともに、互いの考えを交流させる。 書画カメラや動画を用いて、操作の仕方を視覚的に理解できるようにするとともに、楽しく練習できる教材の工夫に取り組む。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に興味がある児童が多いが、問題によって調べたいという意欲の高さに差が見られる。 調べたり、観察したりしたことから、共通点や差異点を見付けることには、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人で1つの実験に取り組めるよう、教材の工夫をする。また問題を見いだす時に、経験などを基にして自分自身の疑問から問題作りができるようにする。 実験では、ICT機器を活用して結果を記録するなど、実験・観察の視点に沿って比較しやすくする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの地域について、興味をもって取り組むことができたが、経験が少なく学んだことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 資料から読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 書画カメラを活用して、ワークシートへの書き込みの仕方や資料の読み方を視覚的に学習できるように工夫する。 仕事の工夫や身の回りの安全についての疑問を考えさせ、学習課題をもち、互いの考えを発表し合い解決する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音を出すときのルールを身に付けたい。 楽しく歌うことができるが、地声ではなくよい発声を身に付けることが必要である。 リコーダーの基礎的な技能（タンギングや構え方）を確実に身に付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい合図や活動前の声掛け、掲示物の利用により身に付くようにする。 よい範唱、範奏をたくさん聴き、美しい音を聴き分けられるようにし、よい発声を身に付けさせる。 児童の関心を高めるような楽曲を取り入れ、タンギングや息遣いを丁寧に指導する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> どの学習にも楽しんで取り組むことができるが、材料や用具の経験が少ない。 題材に合わせて、自分なりの表したいことを発想し、すぐに取りかかることのできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学年になって、扱える材料や用具に広がりがあるので、新しく使用するものについての知識や使い方を分かりやすく指導したり、繰り返し使用したりすることで、経験を重ねられるようにする。 全体でお互いのアイデアを共有し、自信をもって主体的に学習に取り組めるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童が多い。 体験が少ないために、器械運動や投げる、蹴るなどの基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画を見て、「できるポイント」を視覚的に確認できるようにする。 「できるポイント」を細かく示した学習カードを作成し、互いにできているかを確認するなど、自分ができるようになったことを実感できるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が見られる。書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 物語文では、大筋は読み取れるが登場人物の細かな心情の読み取りが苦手な児童がいる。 説明文の読み取りでは、文章の要約や文の関連をつかむことが苦手としている児童がいる。 自分の考えをもち、表現することに対して苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟に応じて、朝の時間に練習する時間を設け、定着を図る。漢字の宿題として取り組み、定着を図る。また、定期的に小テストを行う。 他教科の学習等でも、習った漢字は使えるように、教師が意識して指導していく。 主人公はどんな気持ちだったのか、根拠となる文章を抑えつつ、他者との意見交流をして考えを深める。 接続語や指示語に注目させ、文章の内容理解や文と文との関連についての理解を深められるように言葉を意識した授業を進める。 他者との意見交流をしたり、個別指導の際に、児童の考えに自信をもたせるよう価値付けをする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 簡単な四則計算の暗算を身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードとなる言葉に着目させる。自分の考えを深めたり発表したりする時間を増やす。また、ICTを活用し、文章問題の内容を図などで確認していく。 四則計算の補充プリントを用いて繰り返し指導する。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や生活経験を基に根拠立てて予想を立てることが難しい。 実験結果から考察することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもって予想を立てることができるように、共通体験の時間を設定する。また、既習事項や生活経験を想起させるような資料を提示する。 実験結果から分かることを明確にし、分かったことから何が考えられるのかを話し合う時間を設ける。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題について、興味をもって取り組むことができたが、調べたことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 資料から読み取ったり、読み取った内容から考察したりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる際の目的やまとめるためのポイントや視点について指導する。 ICTを活用して、資料（地図、写真等）などを提示し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取り組みをしていく。 資料から読み取れる内容を明確にし、筋道立てて理解できるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく興味をもって音楽活動ができる。より深く、音楽の特徴を理解し、1人1人が自信をもって表現できるようになるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌集を利用し、様々なタイプの楽曲にふれながら楽曲の特徴やどのように表現したらよいか考える活動をする。 よい演奏や上手になったところを具体的にほめ、伸ばしていく。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い反面、予定の時間を終わっても完成できない児童がいる。 手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見直しをもって取り組むことができるよう、毎時間の目標を明確にし、進捗を確認しながら学習を進めていくようにする。 既習の用具や材料を使用する時には、改めて実演を見せたり、ICTを活用して分かりやすく確認をしたり、うまくできない児童には個別に指導をしていくようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童が多い。 器械運動では、ポイントを押さえ活動することができたが、回り方の勢いや自分の体を支えられず、前転や後転がうまくできない児童がいる。 ボール運動での投げる力やバランスをとる力がまだ弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるように、ルールを工夫したり、簡単なゲームをしたりして興味をもてるようにする。児童に合った形で運動できるようにスモールステップで課題を設けるようにする。 体づくりの運動を通して、自分の体の使い方を学ぶ活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介しながら体を動かす技能を高めさせる。 様々な大きさや形のボールを投げる活動や体づくり運動と関連させて、体のバランスをとる活動を増やす。 		

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に考えて、文章の組み立てや意味を理解することが不十分である。 文章における語彙を理解することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語をはっきりさせて、一文を短くして文の要点をつかむことができるようにする。 読書の時間の確保や、新出漢字から派生する熟語について、その意味を理解する時間を設ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 速さの公式を用いて、速さ、時間、道のりを求めることが不十分である。 文章題で問われていることが何かを理解し、既習事項を活用することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの公式から、速さ、時間、道のりが求められることを理解するとともに、分からないことが何かを明確にして、公式を活用できるようにする。 問われていることを色分けし、既習事項の何が活用できるかを明確にした上で、問題解決にあたるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決にあたって、根拠のある予想を立てることが苦手である。 考察から結論を導き出すことが難しいと考えている傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想の書き方を提示し、その書式を活用して予想を立てられるようにする。 実験結果からどんなことが言えるのかを考えるよう、結果をまとめやすくするノートの書き方を提示する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 提示した資料から書かれている内容をつかむことはできるが、なぜそのようになるのか、自分の考えをもとにして予想することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を比較したり、既習事項から共通点や相違点を見出したり、問いを立てる力を付けていくようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズム活動や歌集の歌など、すぐにできることを楽しむ一方、思考や努力を必要とすることになかなか取り組めない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味を持てるような楽曲や平易な楽曲の中で、簡単なクイズや友達と考える活動をしていく。楽器の運指やリズム、音程が難しいものや楽曲構成が長いものはスモールステップで取り組むことができるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組むことができる児童が多いが、よりよくするための根気が続かない児童がいる。 用具や材料についての経験や技能に差があり、それらを活用して表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の心情に寄り添い、個別で声掛けをしながら、じっくりと学習に取り組めるよう支援する。 既習事項については、改めて ICT 機器などを活用して使い方を確認し、繰り返し学習の中で習得できるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能で達成感のある調理や作品作りを設定していく。学んだことを家庭で実践できるように、こつや注意点を教える。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を見つけることが難しく、技や技術の向上に対する意欲が低い。 チームやグループで協力することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本の動画等を見ることで技や技術に興味を持ち、自分の動きを見て振り返る機会を ICT などで取り入れ意欲が持てるようにする。 協力することで、より上達したり記録が伸びたりする経験をさせる。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのやり取りを楽しみながら活動することはできる。その一方で、上手に話せない、何を言えばいいのか、意味が分からないことから苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指示が分からずに不安に感じる場合には、繰り返し説明したり、イラストを活用した例示をしたりすることで意味を類推できるようにする。発達段階にあった意味のある言語活動を行うようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすい文章で伝える力が不十分な児童がいる。 自分らしい表現で自分の思いを表現する力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む教材の単元では、単元の初めの段階で一人一人が構成を考えて捉える活動を取り入れ、自分が書くときや話すときに生かせるようにする。 書く活動ではいつでも一文を短くし、様々な語彙、表現の中から適切な語を選ぶ習慣を昨年度に引き続き身に付けさせていく。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分数や小数の大小の比較や計算に課題がある児童が多い。 問題解決を自分の言葉で分かりやすく説明する力が十分でない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通分、約分が正しく速く処理できるようにするために計算練習を取り入れたり、公倍数・公約数の復習を取り入れたりする。 習熟度に合わせ、文章の形式を示したり、構成を示したりするなどして解説文の書き方を身に付けていく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 動物や植物の体のつくりとその働き、生物と環境との関わりについて、知識の整理や観察、実験結果の現象は理解できる。その一方で、それらの仕組みや働きや関わりについて文で表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の場面では、時間を十分に確保する。そして、なぜそうなるのかを、教科書などの資料や実験結果を参考にしながら記述したり、説明したりする活動を増やしていく。 一つの実験方法だけではなく、多面的に調べる活動をしたり ICT の映像資料などを用いたりして、妥当な考えを導き出す。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 提示した資料に書かれていることを読み取ることはできるが、事実を元に理由を推測する力には個人差がある。 既習事項の知識の定着が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を比較して、資料から分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりする活動を多く設定していく。 授業の初めにこれまでの時代の出来事や人物について確認したり、友達に説明したりする活動を設定して定着を図る。 スライドづくりやノートづくりを設定し、学んだことを整理する活動を設定する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな声で歌うことができるので、楽曲に応じた表現力が高まるとよい。 自分の考えを進んで発表できる児童に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> どの楽曲の中でも音楽を形づくる要素や歌詞の内容についてふれ、特徴や曲の山、どのような気持ちで歌うかを考えるようにする。 必ず全員が考え、自分の考えを表明する場面を作る（ハンドサインや友達との意見交換）。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの表したいことを見付け、表現できる児童が多いが、発想の広がらない児童がいる。 主体的にじっくりと取り組むことのできる児童が多いが、めあてから外れたり、完成が間に合わなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の導入で互いのアイディアを共有したり、作成途中で鑑賞の時間を入れたりして、お互いの発想を共有できるようにする。 めあてを毎回確認する。また、振り返りカードやタブレット端末を活用し、学習の進捗状況を確認し合いながら学習を進めていくようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 学んだことを生活に生かそうとする意欲の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能で達成感のある調理や作品作りを設定していく。 学んだことを家庭で実践できるように、こつや注意点を教える。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫している児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題に気付かせるよう、ICT 機器を使って、自分の動きを確認することができるようにする。また、課題解決のための場を設定する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取る中で知っている単語をキャッチし、話の大体の内容を掴むことはできるが、ふさわしい反応を返す力が乏しい。 アルファベットを使って書く力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> いつでも相槌をうちながら聞く習慣を付ける。 様々なレスポンスの表現を提示し、習慣付けていく。 書く活動を単元の中で必ず取り入れるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。